徳島大学病院　院内広報誌

Harmony

第15号
発行日　平成29年7月
編　集　広報委員会

このコーナーでは、職員の趣味や特技を紹介します。今号は病院長補佐（医歯連携担当）に寄稿いただきました。

個の力を十分に発揮できる環境作り

平成28年4月より病院長補佐を拝命しております。1988年に大学を卒業以来、大学病院における臨床、研究、教育の業務にかまけて、あまり運動らしい運動はしておりません。40歳を過ぎた頃には、年1度の健康診断において尿酸値を指摘され、45歳頃からは高脂血症と肥満からメタボ健診で引っかかるようになってしまいました。しかし、大学入学後に始めたサッカーだけは今でも、年1-2回程度ではありますが、続けております。私がサッカーを始めた頃はまだ、Jリーグが設立されておらず、野球のようにメジャーなスポーツではありませんでした。サッカー部員のほとんどは小学か中学から始めている経験者である中、大学に入るまで高校の体育の授業以外ではサッカーボールに触ったこともなかった自分が、なぜサッカー部に入部したのか。偶々、大学入学後にできた友人がサッカー部に入るといいだし、半ば強引に入部させられたわけですが、その後1年もたたないうちにその友人は退部届を出しました。それからの6年間はサッカー漬けの生活で、時に退部を考えたこともありましたが、結局、卒業するまで楽しくサッカーを続けられたのは、当時の先輩たちのおかげです。当時、歯学部サッカー部員は私を含めて11人、ひとりでもケガで欠けたら試合ができない状況でした。サッカーのイロハもわからない初心者に懇切丁寧にご指導をいただき、少しはらしく振舞えるようになり、チームに迷惑をかけるようなことだけはしなくなりました。こんな初心者の私が所属するサッカー部でも、全国歯学部学生体育大会（通称デンタル）でベスト8、近畿医歯薬サッカー大会ではベスト4まで勝ち進むことができました。個の力で達成できないことでも、チームでは可能なのです。さらに、個の力を100%発揮できる環境作りも重要だと思います。現在の職場である、大学病院ではこのような協調性を活かして、医科歯科連携のチーム作りを進めていきたいと思います。

病院長補佐（医歯連携担当）　田中 栄二

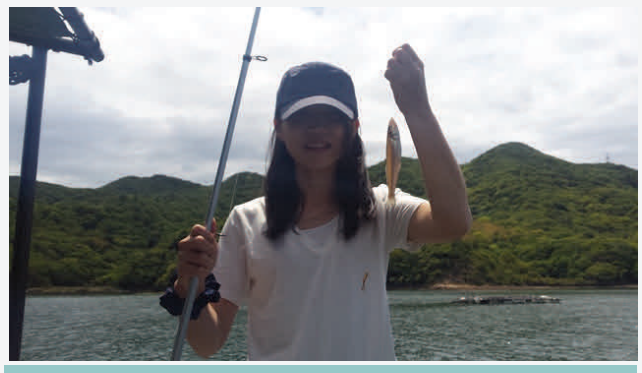
大学時代のサッカー部集合写真

岡山シティライトスタジアムでの3校OB戦にて

このコーナーでは、病院でとりくんでいる様々な事業を紹介します。

海外渡航や留学のサポート始めました～渡航外来開設～

たくさんの輸入ワクチンも
取り揃えています！



鳴門の筏からのキス釣です

旅行や留学、海外赴任も含め日本人の海外渡航者数が、かなり多くなっています。渡航外来を始めてから、こんなに多くの徳島県人が海外で活躍しているのだと感動するとともに、皆様の健康をサポートできることに、やりがいを感じております。患者さんの多種多様な職業や渡航目的から生まれる不安や喜び、また帰国後の楽しいエピソードもお話して頂き、異国の地に思いを馳せることができるのも渡航外来の魅力の一つです。四国で唯一の輸入ワクチンを扱う渡航外来として、①予防接種、②旅行先での注意点、③携帯した方がよい薬、④英文証明書の発行などを行っています。

また当院は「蚊媒介感染症専門医療機関」の協力施設になっています。マラリアやデングの予防に欠かせない蚊対策の説明には、いつも力が入ります。蚊よけスプレーの種類や蚊帳、マラリア予防内服などにつき丁寧な説明と、適切な医療情報サイトの紹介なども行っています。

しかし、皆様、徳島県内でも昨年、豚から日本脳炎ウイルス検出の報告がありました。また案外と知られておりませんが、災害時に問題となる破傷風は、実は国内でワクチン未接種世代（昭和43年から接種開始）を中心に年間100 人以上の患者発生があり、まだまだ身近な病気です。国内の予防可能な感染症についても渡航外来の経験を生かし努めていきます。

渡航外来で用いるワクチンは、多くが不活化ワクチンのために複数回の受診が必要です。なるべく早く(できるだけ出発3か月以上前から)、少なくとも6週間前には受診することをお勧めします。しかし、それに遅れても受診によって対処できることはたくさんあります。

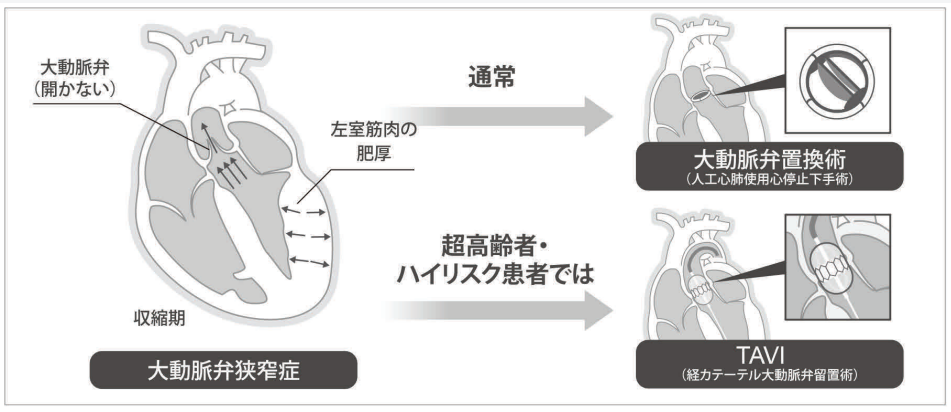
私も東南アジアが大好きで、退職後はタイで永住の夢を持っています。もちろん、ワクチンは十分に！ですね。タイで、大好きな釣をして、いつの日か、のんびりスローライフを楽しみたいものです。写真は今が旬のキスです。最近はルアー釣を始め、大物狙って奮闘しています。

渡航外来　東　桃代（感染制御部副部長）

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係（bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp）までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしています。

経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）の開始について



図出典；徳島新聞（2015年8月8日 元気のヒント 改変）

大動脈弁狭窄症は65歳以上の2-4%の方に発症するとされる高齢者に多い心臓弁膜症で、併存症や体力低下のため人工心肺を用いた大動脈弁置換術を諦めることが多くありました。我が国ではそのような方を対象に、2013年より経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）が保険償還され、急速に広まっています。

本院でもハイブリッド手術室が本格稼働した2016年より準備をすすめ、2017年1月に実施施設として認定され、本院でのTAVI治療が可能になりました。

本準備にあたり、多大なご協力・ご尽力を頂きました関係診療科・部、病院事務部の皆様に厚く御礼申し上げます。

TAVI治療は、これまで単一の診療科・部単位で行っていた従来の治療コンセプトとは全く異なります。心臓血管外科・循環器内科・麻酔科・手術部・看護部・放射線部・MEセンター・リハビリテーション部の医師やコメディカルからなるハートチームが、その適切な治療方針の決定から手術・術後ケアを行います。これまで以上に、多職種医療スタッフ間の連携・協力が不可欠で、いかに上手く機能させられるかが、その治療成績と予後を決めるキーになります。まさに総合力の高い大学病院の強みが発揮できる治療がTAVIであると言えます。

徳島大学病院ハートチーム

本院でも既にハートチームを立ち上げて、勉強会や症例検討会を重ね、5月に本院で初例となるTAVI治療を、高齢の重症大動脈弁狭窄症患者さんに実施致しました。スピーディに手術を実施し、手術室で抜管して、翌日より食事とリハビリを開始し、合併症無く退院されました。

本院には様々な病気を持つ患者さんが通われ、それぞれの疾患に対し先進的な治療が各科・部で提供されていますが、一方で大動脈弁狭窄症など心臓疾患が原因で治療リスクが高いと判断され、残念ながら十分な治療を施せず諦めてしまう場合もあったかと思います。

そのような場合、お気軽にご相談頂ければ、どの様な治療が可能か検討させて頂きますので、いつでもご一報ください。

【連絡先】　TAVI専門外来（毎日）　０８８－６３３－７１５０

徳島大学病院ハートチーム　黒部裕嗣（心臓血管外科・総務医長）

病院新採用職員の紹介（このコーナーは今年度採用された方に自己紹介をしていただきます。）

内分泌･代謝内科　原　倫世医員

内分泌･代謝内科スタッフ昼食会
２列目右端が原医員

今年度より徳島大学病院内分泌・代謝内科に入局させて頂きました、原倫世と申します。私は徳島大学医学部を卒業後、徳島大学病院を基幹病院とする初期臨床研修プログラムを修了致しました。

かねてから研究に興味があり、臨床において実際に患者さんの声を聞き、それを研究に活かすことができるような医師になることを目標としております。血液・内分泌代謝内科で研修させて頂いた際に、臨床にも研究にも力を注がれていると感じ、自分もその一員として微力ながら医学の発展に貢献できればと思い医局の門を叩きました。

まだまだ至らない点が多々ありますが、日々精進して参りたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

泌尿器科　尾﨑　啓介医員

新入局者集合写真
左から２番目が尾﨑医員

平成29年4月より赴任いたしました、泌尿器科の尾﨑啓介と申します。恐縮ですが一言自己紹介申し上げます。泌尿器科学分野では、平成29年度4名の新入局者を迎え、うち3名の先生と一緒に新採用者として大学病院で勤務しております。私自身は、医局人事で四国中央病院、愛媛県立中央病院、徳島市民病院と赴任し、今年で8年目となり大学へ帰ってきました。

趣味としては、フルマラソンに何度か出場したり、学生時代はゴルフ部に所属しておりましたが、この数年はご無沙汰です。休日は2人の子供たちと専ら公園めぐりをしています。市内近辺の主要な公園は全て制覇したのでは、と自負しています。先日、某ショッピングセンターのオープン記念の植樹祭に参加してきました。

一日でも早く仕事に慣れ、患者さんや病院のため少しでも力となれるよう、日々精進して参りたいと思いますので、よろしくお願いします。

麻酔科　布村　俊幸医員

徳島大学病院で2年間の初期研修を終え、2017年4月から麻酔科医として勤務し始めました。麻酔科の仕事は主に手術室で行われ、周術期の全身管理を担っています。呼吸状態や循環環境を良好に保ち、手術による侵襲や手術の進行状態に応じて麻酔薬を適切な量に調節しています。手術が終わり、意識が戻った患者さんが痛がらず、穏やかに手術室を退室して行くときには、満足感でいっぱいになります。

また、オンとオフがはっきりしているのが麻酔科医の特徴の一つです。休みの日は、趣味のバスケットボールの練習に参加しています。練習後にはおいしいご飯を食べ、健康維持を行ない、気持ちをリフレッシュさせています。しかし、身体を鍛えるだけでなく、知識を身につけ、少しでも患者さんに還元できるよう、日々できることを増やしていこうと思います。早く一人前の麻酔科医として胸をはって仕事できるように頑張ります。